



本特集の企画に先立ち、記事を執筆する中小企業診断士メンバー所属の「中小企業政策研究会・企業内診断士の輪を広げる楽しいチーム」（以下、政策研企業内チーム）として、令和の副業の実態を調査すべくアンケートを実施した。

ここでは、その結果から確認できた特徴的な内容について述べる。

1 アンケートの目的

政策研企業内チームは、診断士業務以外の本業を持つ企業内診断士で構成されている。企業に所属する立場で、診断士資格を活用した副業がどこまでできるのかを自分事として探求してきた。

令和に入り、ここ数年で企業内診断士の副業をめぐる状況に大きな変化があった。コロナ禍の影響によって在宅勤務が一般的になり、本業に影響のない範囲で副業に費やす時間の調整がしやすくなった。コロナ禍における経済対策で拡充された補助金の対応など、中小企業診断士の活躍の場が増えてきた。

以下、中小企業診断士の令和の副業の実態について、アンケートを通して確認したい。

第1章

企業内診断士へのアンケート 見えてきた報酬・営業活動の実態と工夫

久保 悟
中小企業診断士

特集 1

2 アンケートの結果分析

(1) 調査概要

①実施状況

アンケートは2023年11月10日(金)~12月10日(日)、Google フォームを利用したインターネット経由で実施した。調査対象は診断士資格を持ち、企業内に勤める副業経験者としている。

なお、令和の副業の実態を把握することを目的としているため、直近3年以内の副業実績について回答してもらうよう依頼した。

1ヵ月という短い調査期間であったが、132件の有効回答を得ることができた。

②設問紹介

アンケートでは主に「回答者の属性」、「経験ある副業」、「副業にかかる時間」、「令和の副業としての変化」の4つに着目する形で設問を構成した。

「回答者の属性」の設問では、従事している副業内容と回答者の属性との関連性を確認するため、年齢、診断士歴を中心として回答者の属性についての質問を行った。

「経験ある副業」の設問では、多様な業種の情

報を得るためにこれまで経験した副業を3つ挙げてもらった。また、それぞれの案件当たりの業務時間、報酬金額、その案件の受注方法や苦勞した点などを掘り下げて設問で確認した。さらに、回答者ごとの1年間の副業による収入の合計金額も確認した。

「副業にかかる時間」の設問では、年間の副業にかけている時間、上位3案件の合計副業時間と案件数を質問に盛り込んだ。また、本業以外に副業の時間を捻出するための工夫や、本業とのバランスをとるために勤務先や本業に配慮した点、および家庭やプライベートとのバランスをとるための工夫についても質問した。

「令和の副業としての変化」の設問では、令和に入って自身の副業を取り巻く環境に対して起こった変化について確認した。

(2) 副業の実態

副業の実態をアンケートで確認するにあたり、回答者の間で認識の違いを排除し、回答内容の整合性をとるために、あらかじめアンケートで副業の定義などを行った。

①副業の定義

今回、副業と定義しているものは「金銭的報酬の発生する診断士業務」とし、無償や実務ポイントを報酬とする活動は対象外としている。また、診断士業務以外の副業（雇用契約、Uber Eats、資産運用、個人間売買等）も対象外としている。

②副業の区分け

政策研企業内チームではこれまで大きく「診る」、「書く」、「話す」で副業を分類してきた。今回は令和の副業の実態をより詳しく分析するために、[A] コンサル、[B] 補助金関係、[C] 講師、[D] 執筆、[E] 予備校関係、[F] その他、という6つの分類で副業の内容を区分けする形で結果を分析している。

図表 1 経験副業（分類別ソート）

分類	経験のある副業	件数	分類別
[A] コンサル	(1) 簡易診断	35	112
	(2) 窓口相談・専門家派遣	46	
	(3) コンサル契約	31	
[B] 補助金関係	(4) 補助金申請支援	91	141
	(5) 補助金審査	50	
[C] 講師	(6) セミナー講師	50	87
	(7) イベント運営補助	29	
	(8) 教育機関の講師	8	
[D] 執筆	(9) 専門誌等執筆	55	149
	(10) WEB 媒体執筆	39	
	(11) 調査・報告書作成	38	
	(12) 書籍出版	17	
[E] 予備校関係	(13) 予備校採点添削・作問等	16	44
	(14) 受験生相談員（フォロー）	8	
	(15) 予備校講師	5	
	(16) 参考書等執筆	15	
[F] その他	(17) 企業経営（取締役等含む）	6	10
	(18) その他	4	

(3) 実際のアンケート結果からの分析

ここからは、実際のアンケート結果から特徴的な内容を中心に紹介する。

まずは、経験した副業は以下のとおりである。

①種別、件数の分析

前述の6分類ごとの件数を示すと、図表1のとおりである。128人の複数回答として総計543件の回答を、分類ごとの件数でまとめたものである。

分類別で件数が多いのは、「[D] 執筆」149件、続いて「[B] 補助金関係」141件、「[A] コンサル」112件である。具体的な業種で見ると、「補助金申請支援」が91件で最も多い。次に「専門誌等